

投資事業評価調書（新規）

部課室名	県土整備部土木局 道路建設課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	道路建設課長 多田 智 (県道係長 松田 智)	内線	4 3 6 2 (4 3 7 6)
------	-------------------	---------------------	----------------------------	----	------------------------

事業種目	道 路	事 業 名	事 業 区 間	総事業費	約 21 億円
		道路改築事業 ふじいあげし (一) 藤井上石線	とよあかしひたかちょうふじい ひがししば 東 芝	内用地補償費	約 7.5 億円
所 在 地			事業採択 予定年度	着工予定 年 度	完成予定 年 度
豊岡市日高町藤井 ～ 東芝			平成 19 年度	平成 19 年度	平成 24 年度
事 業 目 的			事 業 内 容 等		
<ul style="list-style-type: none"> 本路線は、豊岡市日高町藤井から同上石に至る幹線道路であるが、幅員狭小で歩道も整備されていない。また、日高竹野線（H19 完了予定）を介し国道 312 号日高バイパスに接続しており、豊岡市において新市中心部と旧日高町中心部の連携を強化・円滑化し、合併後のまちづくりを支援する重要な道路である。 国道 312 号は兵庫県を南北に縦断する主要幹線道路であるが、日高バイパス起点部において慢性的な渋滞が発生している。 台風 23 号では、国道 312 号も含め本路線周辺地域で、道路が冠水し、地域へ大きな影響を与えた。 このため、日高バイパスから国道 312 号へ本事業により接続し南北交通の円滑化を図るとともに、歩行者の安全を確保し、円山川内水氾濫等でも影響を受けない道路交通ネットワークを構築する。 			道路改築（バイパス） L=2,600m （うち橋梁部 L = 41 m〔八代川渡河橋梁〕 L = 137 m〔JR 跨線橋〕） 【道路規格】 3種2級（平地部） 【計画幅員】 W=6.50(12.25)m(2車線+片側自歩道) 【現況幅員】 W=5.0(6.0)m 【計画交通量】 5,200 台/日(H42 推計) 【現況交通量】 2,706 台/日(H11 セガ入) 【負担割合】 県：10/10		
評価視点	評価結果の説明				
(1)必要性 安全・安心を確保する道づくり	<ul style="list-style-type: none"> バイパス整備により南北交通の円滑化を図り、交通渋滞、混雑を解消するとともに歩道を設置することにより通学時等の交通安全性が確保される。 円山川氾濫時における北但地域の南北幹線道路である国道 312 号の代替路を確保する。 				
くらしと交流を支える道づくり	<ul style="list-style-type: none"> 北但地域における南北幹線道路網の機能向上・強化を図り、物流や地域間交流の円滑化により生活基盤の強化と但馬の観光・産業の発展を支える。 市町合併による支所間連絡、中心市街地アクセス、第3次医療機関である豊岡病院へのアクセス等を向上させ、新市の都市機能を強化すると共に、新市のあらたなまちづくりと個性ある発展を支援する。 				
県土の活用を進める道づくり	<ul style="list-style-type: none"> 北近畿豊岡自動車道（仮）日高北ICとのアクセス、防災拠点であり交通結节点でもある但馬空港へのアクセスを向上することにより、広域的な交流・連携を支えるとともに、災害に強いまちづくりを推進する。 				
(2)有効性・効率性 有効性	<ul style="list-style-type: none"> 費用便益比 $B/C = 2.1$ 国道 312 号の慢性的な渋滞を解消し、移動時間を短縮する。 				
代替性	<ul style="list-style-type: none"> 八代川内水による路面冠水を回避したルートであり、かつ経済性に配慮したルートである。 				
効率性	<ul style="list-style-type: none"> 地元住民をはじめ周辺住民においても当事業に対する理解と合意形成は出来ており、協力体制は十分整っている。 				
(3)環境適合性	<ul style="list-style-type: none"> 構造物は最小限にし、土羽盛土により環境への影響を最小限に留めるとともに、盛土材は他事業等の発生土を利用し資源循環に努める。 				
(4)優先性	<ul style="list-style-type: none"> 平成 17 年 4 月に誕生した新市のまちづくりを支援するために速やかな事業着手が必要である。 豊岡市を南北に縦断する主要幹線道路である国道 312 号を補完し、地域の経済・産業活動を支える。さらに、河川氾濫の影響を受けない中心市街地、第3次医療施設へのアクセス道路の整備が急務であるため、平成 19 年度より事業着手する。 				